

REPORT

●
病
医
院

デフレ時代に好評博す「プチ検診」

低価格と短時間で受診者発掘、一時のブームに終わらせない工夫も

「ワンコイン」や「クイック」をうたい文句に、検査項目を絞り込んで手軽に受けられる低価格な健康診断を始める病院、診療所が増えてきた。デフレで消費マインドが冷え込む中、「プチ検診」は医療機関の新たな収入源となり得るのか。先行施設に、実施の狙いや運営のポイント、利用状況などを取材した。

表1は、民間の病院や診療所が手がけている主な「プチ検診」の一覧だ。生活習慣病を中心とする検査項目をセットにした総合的な血液検査、貧血や糖尿病といった個別の疾病の血液検査、乳がんや大腸がんの検査など、様々な内容で実施されている。

価格は500～2000円。1回数万円かかる人間ドックの10分の1にも満たない。検査に要する時間も、採血なら受け付けから終了まで15分前後、マンモグラフィでも30分程度。最低でも半日近くかかる人間ドックより、受診者の拘束時間は大幅に短い。

それでは、「低価格」や「短時間」を維持しつつ、受診者を確保し採算を合わせるために、実施施設はどのような取り組みをしているのだろうか。個別のケースで見えていくことにしよう。

表1◎医療機関が実施している主な「プチ検診」の検査項目と価格

プチ健康検診 (姫路中央病院付属クリニック)

①血液検査セット (2000円)

TP、BUN、クレアチニン、尿酸、中性脂肪、LDL-C、AST、ALT、T-BIL、 γ -GTP、血糖、赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット、白血球、血小板

②貧血 (500円)

赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット、白血球、血小板

③血糖値 (1300円)

血糖、HbA1c

④お酒の飲み過ぎ (1200円)

AST、ALT、 γ -GTP、アミラーゼ、ChE

⑤肥満 (1500円)

総コレステロール、LDL-C、中性脂肪、尿酸

⑥ピロリ検診 (2000円)

血中ヘリコバクター・ピロリIgG抗体

⑦乳がん検診 (2000円)

マンモグラフィ

いずれも検査結果は10日から2週間で自宅に郵送

クイックチェック (京都協立病院)

①簡易健康チェック (1500円、健康友の会会員は1000円)

身長、体重、血圧測定、タンパク、糖、潜血、ウロビリノーゲン、AST、ALT、ALP、 γ -GTP、LDH、T-BIL、中性脂肪、総コレステロール、HDL-C、尿素窒素、クレアチニン、尿酸、血糖、赤血球、白血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット、血小板
検査結果は翌日自宅に郵送

②便潜血反応 (700円、健康友の会会員は500円)

2日間採取、検査結果は後日自宅に郵送

ワンコイン検診 (ベイサイドクリニック)

①糖尿病 (500円) …血糖、HbA1c

②動脈硬化 (500円) …脈波伝播速度検査

検査結果は終了後に手渡し

姫路中央病院付属クリニック (兵庫県姫路市)

自販機で時間短縮とコスト軽減

医療法人公仁会・姫路中央病院付属クリニックの3階には、自動販売機が置かれている。売られているのは、同クリニックが実施している7種類の「プチ健康検診」の検査券。受診者はここで自分の受たい検査のチケットを購入し、次に2階の受付で問診票に記入する。その後、処置室などに行って検診を受ける。料金は支払い済みだから、

検査が終わればそのまま帰宅できる。

姫路中央病院は、数年前から人間ドックを始める具体的な準備を進めていた。ところが2009年秋、北海道小樽市の市立小樽病院がプチ検診を開始し、それが好評だと知った。そこで、半日以上の間がかかる人間ドックより、住民が希望する検査だけを受けられる検診の実施に方向転換し、2010年2月に「プチ健康検診」をスタートさせた。

「主婦のように健康診断を受ける機会が少ない人を拾い上げ、合わせて付



姫路中央病院付属クリニックでは、自動販売機で「プチ健康検診」の検査券が購入できる。院長の立花光夫氏は、「地域住民に健康診断の重要性を訴えるために安価で手軽な健診を始めた」と語る

き添いなどで来院する中高年者が、待ち時間に受診してくれれば良いと考えた」と院長の立花光夫氏は話す。2010年2～11月の受診者数は、マンモグラフィの615人をはじめ合計915人。その約2割は、こうした付き添いで来院する人で占められている。

女性受診者に心配り

検査料金は、最も高い血液検査セットや乳がん検診でも2000円。貧血検査だけなら500円だ。この価格帯に設定したのは、サラリーマンや主婦に加え、学生にも気軽に受診してほしいから。実際、20歳前後とみられる女性が数人連れ立って、受診に訪れたこともある。

ピンクリボン運動などにより、乳がんへの関心が高まっていると考えた立花氏らは、低価格以外にも受診者を増やす手を打った。乳腺外科医が男性であることから、触診を省略したのがその一つ。また女性の臨床検査技師を2人採用し、プチ検診の担当にしている。

ただし2000円では、検査コストだけを賄うのが関の山。そのため自動販売

機を導入し、受け付けや会計の業務に職員の手がかからないようにした。

もっとも立花氏は、プチ検診単体で利益を上げるつもりはない。異常が発見された受診者が同院で精密検査を受けたり、地域での信頼アップにつながれば良いと考えている。また、人間ドックの本格的な展開を前に、「未受診者を掘り起こす意味があった」とみている。

京都協立病院 (京都府綾部市)

迅速な検査・処理を売り物に

社団法人京都保健会・京都協立病院(99床、うち一般75床)が実施している「クイックチェック」も、プチ検診の1種だ。身体計測や血圧測定に様々な検査項目を盛り込んだ血液検査と便潜血反応の二本立て。予約不要で診察時間中ならいつでも受診できる。

「クイックチェック」のスター

2002年から「クイックチェック」を実施してきた京都協立病院。最初の数年間は年間100人前後が受診した

トは2002年7月。専業主婦など、健康診断を受けにくい人が主なターゲットだ。実際、受診者の中で30歳代女性の割合が最も高くなっている。「主婦層は家事や子育てに忙しい。子どもの付き添いで来院した際にでも、気軽にちょこっと健康診断を受けてほしいと考えた」と副看護部長の高野明美氏は話す。

名称が示すように、同院の「クイックチェック」は、スピードを最も重視している。そのため、検査技師など検診に携わる職員には、受診者の検査や事務処理を優先的に行うよう徹底。それが、検査結果を原則として翌日に患者宅へ発送することを可能にしている。

特定健診スタートで受診者減

もちろん、低価格も気軽に受診してもらうための大きなポイントだ。血液検査で1500円という価格は、郵送料まで含めると収支トントン。ただし、新たな設備やスタッフをそろえる必要はないし、一方で受診者が、病院と付き合いきっかけづくりになるメリットがある。同院の患者や地域住民で組織する「健康友の会」の会員向けには割引料金を設定し、入会勧誘の手段にもしている。

